

## 編集室

## 庄原市こども未来広場

平成30年6月24日(日)梅雨のなかば、晴天に恵まれ「庄原市こども未来広場」で庄原市小児科診療所(庄原こどもクリニック)、庄原市病児病後児保育施設(わらべ保育室)の落成式が開催されました。庄原市長の式辞に続き広島県健康福祉局長、県会議員、市会議長の来賓挨拶、クリニックの初代院長となる金丸先生の緊張した表情にも決意を込めた挨拶がありテープカットにて無事閉式となりました。

こども未来広場は約1,300㎡、庄原市の中心地庄原小学校に隣接し、ローソン、調剤薬局が併設されています。広い駐車場を備え、診療所、病児病後児保育施設は木造平屋でいろいろの工夫がみられる清潔で暖かみのある施設となっています。ちなみに三次市の病児保育施設は三次中央病院一階の片隅、院内保育所に隣接した部屋に設置しており、うらやましいかぎりです。なお総事業費は約3億3千5百万円とお聞きしました。

庄原市は、平成28年度末、市議会の意見を真二つに分けた、「子ども未来広場計画」が発表されました。この計画は、庄原市の中心地にある、庄原小学校の隣接地の建物を撤去して、小児科診療所、病児病後児保育施設、放課後児童クラブ、2カ所の子育て支援施設を統合した「ひだまり広場」を9億円近い費用を投じて、1カ所に整備しようというものでした。市の提案は、議会への発表が突然のものであり、総予算の大きさに驚きが上がリ賛否両論、結論は平成29年春の市長、市議会選挙後に持ち越されました。結局計画は小児科診療所と病児病後児保育施設に

絞った変更になり平成29年6月から基本設計が始まり、用地取得、整備工事を経て平成30年6月24日落成式を迎えました。7月2日から診療が開始されています。いわゆる公設民営です。

この話が持ち上がったのは県北で開業希望の小児科医師が三次中央病院に赴任したことからはじまります。庄原市には小児科医師は庄原赤十字病院に2名派遣されているだけで、市内には開業医はいません。そのため庄原市は小児科医師の確保に向け総合的な子育て支援の整備計画を立てました。用地確保や併設されるコンビニエンスストア、調剤薬局などの問題があり大変難航しました。私自身、三次の市議員にせっかく中央病院に来た医師を庄原に「とんでもない」と名指しして非難されたこともあります。

本年5月から庄原赤十字病院で、お産が再開されました。月平均数名と決して多くの人数ではありませんが、現在の体制では無理のない範囲、安全第一で行われています。三次中央病院も支援していきます。

落成式の後、庄原市の副市長さんに誘われ庄原赤十字病院の中島院長たち数名で備北丘陵公園に立ち寄りしました。公園北口エリアは最近、無料開放されており、出店も多く家族連れの人たちで賑わいを見せていました。国兼池を見下ろすエントランスセンターのカフェで、高野のリンゴジュースをいただきました。心地よい初夏の風に吹かれ庄原時代を懐かしく思った一日でした。

(中西 敏夫)

## 広島県医師会速報 2018年(平成30年)7月5日

- 発行所／一般社団法人 広島県医師会 〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2番3号 TEL 082-568-1511 FAX 082-568-2112  
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail: [kouhou@hiroshima.med.or.jp](mailto:kouhou@hiroshima.med.or.jp)
- 編集者／広島県医師会会長 平松 恵一  
(広報委員)山中 祐介、小園 亮次、高路 修、隅田 昌之、谷 充理、津田 敏孝、中尾 三和子、  
平尾 健、正岡 良之、吉田 良順、桑原 正雄、小笠原 英敬、水野 正晴、志田原 泰夫
- 印刷所／レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL 082-844-7500 FAX 082-844-7800